

お念仏と共に ～ 如来に念じられて生きていこう ～

謹賀新年

響流山勝福寺

如来さまの元旦

昨年は、「聞こう、念仏のころころー願われ、待たれて
 いる私を生きん！」のテーマのもと、日豊教区・四日市
 別院 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が勤まりました。
 勝福寺からも90名の方が新しくなった本堂に参詣し、ま
 た、20名の方が帰敬式を受式し、同じく20名のお子さんが
 稚児行列に参加されました。この法縁を通して、少しばか
 りであっても、ご先祖から大切に受け継がれてきたお念仏
 のころころに触れ、親しんで頂けたのではないのでしょうか。
 とところで、本当にすばらしいものに出会えたときは、もつ
 とそれを味わいたいと思いませんか。お念仏の世界も同じ
 で、いよいよ大きく広い世界に出たくなります。
 時機が熟していると思います。勝福寺でも「親鸞聖人七
 百五十回御遠忌」を勤めませんか。
 どんな御遠忌にしたらいいか。御遠忌を通して、何を学
 んでいくか。色々とご意見があるうかと思えます。年明け
 とともに、皆さんと一緒に考えていきたく思っています
 で、よろしくお願ひします。

「南無」を忘れた人間は
 「信」と「愛」との心失せ
 「疑」と「憎」とが燃えさかり
 「欲」の大海に呑み込まれる

「南無」を忘れた人間は
 身を焼き海に溺れても
 訳もわからずもがいては
 三悪道に沈みゆく

なんで、なんで、なんでやと
 声を限りに叫べども
 心が外に向く限り
 叫びは空しく闇に消ゆ

疲れ果てたるまどろみに
 内から響くその声は
 はるかに我呼ぶ弥陀の声
 「弥陀の本願信ずべし」

「南無阿弥陀仏」と称えれば
 「信」と「愛」とが芽生え出し
 「欲」と「執」との縛り解け
 ここは願生浄土の天地なり

ご門徒さん

こんにちは！

第六回

お寺のお世話だけでなく、地区の色々な集まりのお世話をしてみんなから絶大な信頼を集めている美佐子さんです。

生まれは宇佐市南院内で六人兄弟の五番目として生を受け、今年で七十五歳になるそうです。実家は大規模農家で、両親は朝から田畑に出かけて留守。おばあさんが面倒を見てくれたそうです。そのおばあさんはとても信心深く、朝夕、仏壇の前で手を合わせる姿を見ながら育ちました。

学校を卒業してからは花嫁修業の一環で洋裁を習っていましたが、ご主人の一好さんが二十一歳、美佐子さんが二十歳の時に結婚されました。その二人の馴れ初めをお尋ねすると、美佐子さんのお姉さんのご主人と一好さんが友達で、仕事帰りに友人宅である美佐子さんの家によく寄っていたそうで、その折に友人から「自分の奥さんに妹がいるが、嫁にどうか」と声をかけ

られたのが縁だそうです。美佐子さんがお嫁に行くとき、玄関でお母さんから「いつも笑顔でおい。人間、顔に出したらおしまいよ。そして弱みを見せたら駄目」という餞（はなむけ）の言葉をもらったそうです。

お母さんは、近所に貧しくて困っている家庭があると、食べ物などをそと持っていつてあげるような方で、終生続けられていたそうです。

愛唱歌は恩徳讃

渡辺美佐子（四日市上町）

そんなお母さんの血を継いでいる美佐子さんだから、みんなのお世話をいやがらない。だから、みんなもアテにする。そんなことから、地区の身寄りの無い人で具合の悪い人を、何人も家族代わりに看取ったことがあるそうです。

結婚してご主人のご両親と同居しますが、嫁ぎ先も実家と同じく大規模農家で、信心深い家でした。五年ほどたち、弟の家が空いたので、両親が

そっちに移られました。「随分、気が楽になったでしょう？」と尋ねると「いいえ、毎日、顔を出して気をつかえば一緒よ」と笑って答えられました。義父は職場でも地区でもみんなから一目おかれた方で、随分苦労があったようですが、美佐子さんは「義父さんは厳しかったけれど、素晴らしい教えを授けてくれて、今でも感謝しています。義父さんの教えがなければ、今の自分は

ありませんよ」というほど多大な影響を受けたそうです。だから、どんなことでも決して手を抜かない美佐子さんの性分に、ますます磨きがかかったのでしょう。

勝福寺のお世話をするようになったのは、二十年勤めた会社を五十五歳で辞めた時分、当時上町のお世話をしていた渡辺春子さんから「私も七十歳になったので、私の後を継いで」と申し継ぎを受けたこ

とからで、以来二十年お世話をされています。

一好さんは温厚な性格、美佐子さんは手を抜くことが出来ない性分。朝早くから田畑で働き、それが済むとみんなの世話で飛び回り、家でじつとしていくことが珍しい。そんな美佐子さんに一好さんは「いやな顔一つしません。お昼になって美佐子さんの帰りが遅くなっても自分でさっさと



昼食を済ませてしまい、美佐子さんがあわてて帰ってきて「もう食べたよ」といやな顔もせず迎えてくれる「ご主人のサポートに感謝しているそうです。

「一好さんは優しいですね」と私達が言うと、一好さんは「気さくでよく仕事もするし、よく動いてくれる。こっちは感謝しています。そしてこれだけ長く（五十五年）一緒

にしていると空気みたいな存在」と笑いながら答えてくれました。これも美佐子さんを信頼しているからでしょう。

美佐子さんがお寺に行く楽しみの一つが「恩徳讃」を歌うこと。理由はその言葉が自分の人生と重なるようで、心に響いてくるからだそうです。結婚して以来、毎日続けている仏様のご仏飯と花の水替え。そして一日の始まりは夫婦で仏壇の前に座り、お経をあげることから始まり、一日の終わりも仏壇の前にすわり「感謝」の心で手を合わせて終わります。

母の言葉を守って、今まで問題が生じれば他人を頼るんじゃなく、一生懸命自分で解決してきました。それを仏様が見ていてくれる。仏様だけはつらさ、悲しさを知っておられる。でも最近、「少しはみんなの役に立ったかな。少しは甘えてもいいかな」と思えてきました。これもみんなが支えてくれたおかげです、と穏やかに話す美佐子さん。

でも美佐子さん、まだまだ元気でもみんなのまとめ役として引っ張って行ってください。

（文責 渡辺 重昭）

勝福寺研修旅行 今年は四国松山へ

伊方原発



十一月三〜四日、一泊二日の行程で、四国電力伊方原発と日本最古の湯道後温泉と大洲町散策」の研修旅行が

秋晴れのもと総勢二十四名の参加で実施されました。

佐賀関からフェリーで三崎港へ、しらすパークで昼食をとり、四国電力伊方原発を見下ろすビジ



熱心に耳を傾ける参加者

ターズハウス」で原発のしくみなどの説明を受けました。

その後バスは高速道路を松山市へ向かい正岡子規が幼少年期を過ごした「子規堂」を見学し、ホテル椿館に到着。

「さあ温泉へ入って宴会だ」と行きたいところですが、研修旅行でするので、伊方原発をとめる会」の和田幸さんから原発の危険性について限られた時間でした

が要点を講義していただきました。

四電の説明と比較して聞いてみるとその違いがよく分かります。一

言で言えば、危険性の認識の問題です。四電はそばを通っている活断層が8 km離れており、原発の高さは10 mあり想定津波の高さ8 mより高いから安全」と説明していたが、

「とめる会」では、活断層との距離は実際は5 kmで連続している」として、新たな研究に基づいて原発の差止訴訟を提起し、年明けにも一審判決が出るとのことでした。事故が起これば影響を受ける可能性が高い私たちも注目する必要があると思います。

お待ちかねの夜の部は、カヲオケにフラダンス(松尾・若林・佐藤麗子&坊守さんによる熱演)と楽しい宴会で大変な盛り上がりでした。

翌朝は、

来年から修築に入るという共同浴場(道後温泉本館 泉本館 坊ちゃん湯)」で



入浴し、民芸伊予かすり会館を見学後、正岡子規と秋山好古・真之兄弟を描いた司馬遼太郎の小説をテーマにした坂の上の雲ミュージアムを見学し、松山市を後にして大洲市へと向かいました。

大洲市では、臥龍山荘とおはなはん通りを散策し昼食後、帰路につきました。下の写真の臥龍山荘は山河の景勝を借景に取り込んだ優雅で贅沢なつくりで別荘の主の気分をしばし楽しんだ



臥龍山荘にて

ひと時でした。天候にも恵まれ大変楽しい二日間でした。

勝福寺報恩講

*当番は院内地区です

日時 一月二十七日(金)〜二十九日(日)

昼席(午後一時) 夜席(午後七時半)

講師 平野喜之先生(二十八日昼〜二十九日昼)

*二十七日は住職が勤めます。

除夜の鐘

四日市別院の大鐘が撞けます。ライトアップされた山門、参道の赤いろうそく、甘酒もあります。

修正会

勝福寺本堂で、元旦午後一時より、新年のお勤めをし、阿弥陀さまより新しい一年を頂きましょう。



秋季彼岸会・永代経法要



秋の彼岸会をどうするか、総代さんや婦人会の方と話しあった結果、仏さまを讃嘆するお勤めと、楽しい催しと、自分の生活をふり返る感話と、教えに耳を傾けるご法話と、熊本地震被災者を支援するバザーと、盛りだくさんの法要となりました。

初日

いつもなら午後から始まる彼岸会ですが、今年は午前11時から開式です。はじめに、全員で阿弥陀経を誦誦し、ご先祖のご恩を謝してお焼香をしました。

引き続き四日市上町の渡辺重昭さんが感話。学校長の身に思わずおとずれた重病。今、それをくぐり抜け、与えられた日々を、歓びのうちに観光ボランティアや、勝福寺の新聞「ひびき」作りに励まれている様子をお話し下さいました。



続いて、春から法務を手伝ってくれている村田風さんのミニ法話。

バザー
品物を提供下さった皆さま、ご購入して下さいました。皆さま、有り難 (詳しくは五頁)



二法話。
お昼となり、婦人会の方が朝から頑張って作ってくれたおにぎりを頂きました。食後お座敷を会場にバザー。結構な賑わいでした。



その後、矢頭明美さんの大正琴の伴奏で、「星影のワルツ」などをみんなで歌いました。

続いて、常徳の三人娘が日本舞踊を披露。ヤンヤ、ヤンヤの喝采でした。



お経は、正信讚(しようしんさん)といって「歌」によるお勤めです。その後、住職がシルクロードの旅行を通して教えられたこととお話し、三時過ぎに解散となりました。

二日

初日と同じく、11時よりお経。お経中、ご先祖のご恩を謝してお焼香。



感話は大塚の後藤アヤメさん。なかりゆきまかせの人生で来たが、そうはいかぬ歳となり、これからは仏さまのまことを聞いていきたい、と。

ミニ法話の予定の信さんは、逆に、みんなの声を聞かせて欲しいと、本堂の真ん中に座ってしまいました。



日も婦人会の手作りのおにぎり。おいしく頂いた後は、お座敷のバザーで買い物です。その後、本堂に戻って風さんと信さんの歌。風さんの「涙そうそう」はいいですね。

続いて山本の佐藤公代さんの指導で「野菊」を歌い、「だっただっ」のおばあさん」の読み聞かせがありました。



正信讚の後は坊守の腹話術による法話。最近、三光地区のサロンに招かれ、お人形さんも「もと



お婆ちゃん」となりました。今年はお接待をしようとお参りした子どもにもお菓子を用意しましたら、四人参ってくれました。本堂に子どもたちの声が響くと明るくなりますね。今年の彼岸会、皆さまはいかがでしたでしょうか。

熊本地震被災地支援 第二回宇佐組有志 炊き出し報告

笑顔がいつばいの 炊き出しでした！



今回、炊き出しをした場所は、前回と同じ、熊本市東区の秋津第一公民館というところです。

熊本でお世話になってい
るお寺、専福寺さんの内古
閑さんは、仲間と共にもう
百回以上も炊き出しを行っ
てきている方です。炊き出
しを行うことで、その皆
さんが隣近所との関わり
やつながりを持つきっかけ
につながってくれたら嬉し
いし、その場でカフェを開い
たりと、みんな苦しいこと
もあるけど、被災者とは言っ
ても、もちろん日々の暮ら
しの中で楽しみはあって、
人と出遇い、話して笑いあ
う、そういう関係を持ってた
ら嬉しい、だから炊き出し
を続けています」とお話し
てくださいました。

今回はサロンを一時間ほ
ど開きました。純子さんに
よる腹話術に、佐藤さん
と純子さんとの手話によ
る歌、私と信さんでギター

と太鼓と歌、そして湯口さ
んという方によるマジック
ショー。事前に区長さん
がビラを配ってくださった
こともあり、子どもも多く
来てくれて、みんなで笑い、



マジックショーで盛り上がり

楽しく過ごさず時間となり
ました！

子どもたちにはやはりマジックショーが一番人気だったようで、大変盛り上がり
ました！

そして炊き出しについてで
すが、肉じゃがを前日に作
り熊本に持って行ったもの
の、熊本に着いて開いてみ
ると肉じゃがはすっぱい臭
いがして少し傷み始めてし
まっていました。

私たちとしても非常に残
念でならなかったのですが、
結局、肉じゃがを出すこと

は断念し、チーム熊本の臨
機応変の対応に助けられ、
急遽おでんを出すことと
なりました。思いもよらな
いことになってしまいました
が、現地の方々には、サロ
ンやおでんを提供でき、また、
岡本康さんの柿・大久保
清さんのみかん・川面英子
さんの乾パンなど、おみや
げを持って帰ってもらい、喜
んで頂きました。

秋のお彼岸会のバザーか
ら始まり、皆さんのサポー
トがあつて支援することに
至り、その中で温かな時間

をもつことができました。
また懲りずに第三回を
考えております。
(村田風記)



280食、提供できました

野菜作り

藤谷 信

今、宇佐市大字中原の矢次
信子さんの畑と山門の隣の空
き地を借りて、風さんと野菜
作りをしています。野菜作りの
おかげで太陽を浴び、体を動
かせます。長グツをはいて、土
の上を歩き、クワを振り、土に
触れます。

二人でやるのがまた楽しく、
気持ちも落ち着きます。コンク

リートより土や木や田畑が、
街の空気より山の上の空気が、
車の音より波や鳥や虫や木々
のざわめきに心落ち着きます。
自分の中に求める
もの、やるべきこ
とが眠っている
ような気がし
ます。

田畑も減り
車が増え、家は
増え大きくなるが、
人も虫も動物も減り静かになっ
ていつているような気がします。



本当にこうしていききたいのか、
自分にもいつか子どもができる
のだろうか、こういうものを残
していきたいのか。自分の安全
と娯楽の為に、自分というもの
を閉じ込めるのか。野菜一つの
為にたくさん虫を殺しながら、
自分だけ家族だけ人間だ
けを生きていくのか、どうした
ものか、悶々としながらやって
います。どのような暮らしを、
どのような役割ができるのだろ
うか、探していきたいと思いま
す。

真宗門徒の生活の要を、朝夕の勤行として「正信偈」「和讃」を定めてくださったのは蓮如上人です。そして朝夕の勤行を「如来・聖人の御用」であると、つまり阿弥陀如来をして親鸞聖人からの「ご用命と受け止めて、如来のまごころに目覚めなさいと勧めてください」

真宗門徒のまめ知識

【朝夕の勤行のすすめ】

（純子）

「伊勢湾台風で家が浸水にあつて居る時も、家々からはお夕事の正信偈の声が聞こえていた」と聞いたことがあります。災害時にこそお内仏の前に坐つて、仏さまの教えを仰いだのでしよう。帰依処になつていたのでですね。

私達は身体のためには、病院に通い薬を飲み、リハビリや体操に励みます。でも心の健康の方は大丈夫ですか？

体の病気は自覚しやすけれど、心の病は自覚しにくいものです。「私の考えは正しい」「私がんばったからうまくいった」これが生きずらさや不満や淋し

さの原因だったりします。何によつてこの命は満ち足りるのだろうか？ 本当のいのちの喜びって何だろうか？ お内仏に坐るときに問われてきます。でも、「こんな忙しい時代、朝夕の勤行な

れしいときも坐る座・帰る世界があることが幸せです。なむあみだぶつ



私は、お掃除の仕事をしていますが、今回編集部の方より依頼がありましたので、身近な洗剤を使ったお掃除の仕方を、少し紹介させていただきます。

き、水を含ませたフキンを入れ三分ほど加熱すると、水蒸気で汚れが落ちやすくなります。

後こすり洗います。それでも取れない汚れは、カビ洗剤で落とします。

暮らしの知恵袋

渡辺玲子

（四日市寺町）



◆台所の油污れは、アルカリ性の洗剤でおとします。強固な汚れは熱いお湯に洗剤を入れ漬け置きが楽です。そして、キッチンペーパー等に洗剤を染み込ませてパックすれば、汚れが落としやすくなります。

◆浴槽の洗浄は、まず皮脂汚れをアルカリ洗剤で落します。石鹸カスやカルキは、酸性洗剤を塗り、時間を置いた

掃除の後には気持ちいいですよ。

◆シンクやトイレの汚れもアルカリ性と酸性の洗剤を使います。

◆重層（アルカリ性）・セスキ炭酸ソーダ（アルカリ性）・クエン酸（酸性）等は、100円ショップにも売られており、これらの汚れにすべて対応できます。使っている人も多いと思いますが、身近で優れている洗剤です。

編集後記

「ひびき」の編集に関わりだして一年半が経ちました。この楽しみの一つに「ご門徒さんこんにちわ」のインタビュアがあります。今回も渡辺美佐子さんを訪問し、いろんなお話を伺いました。でも紙面の都合で載せられなかった記事が今回も多数ありました。この欄でその一つを紹介します。

「以前は、どこの家庭もお仏壇を中心にとまつていた。両親が仏様に手を合わせ、頭を下げて居る姿は何もの以上に尊いことを子供に自然と理解させ、子供も自然と仏壇の前に座り手を合わせる習慣がついた。でも現在は仏壇がない家庭も多く、中心になるのがテレビやお金という家庭が普通になって居る。やはり人の上にもう一つ尊い物がないと人間がわがままになってしまうのではなからうか」紙面の都合で載せないにしては気になるお話でした。来年もいろんなお話をインタビューに伺った先々でお聞きするのを楽しみにしています。そんな楽しみをもって編集に携わりたいと思います。

（渡辺 重昭）